

結核アーカイヴ事業を可能にした「浅羽基金」

結核予防会

顧問 島尾 忠男

結核予防会は平成 21（2009）年にかねてから検討中であった「結核アーカイヴ事業」を発足させ、2月20日に第1回委員会を開催した。結核に関する貴重な資料の収集、保存と将来の展示を目指す事業であり、重要ではあるが、日常の業務に追われている中では、予算を割きにくい事業である。これを可能にしたのが、元結核予防会の医師であった浅羽陽先生の未亡人浅羽俊子さんから、ご遺言により平成 20 年 12 月ご遺贈して頂いた 2 億 1201 万 8877 円を原資として作られた「結核アーカイヴ運営基金」である。

浅羽陽医師は静岡県下田の生まれで、旧制東京高校（戦前唯一の国立の 7 年制高校）から東大医学部を昭和 20 年に卒業され、当時結核研究所所長をしておられた岡治道先生を慕って結核予防会に入職し、結核研究所、第一健康相談所、渋谷診療所に勤務された後、佐倉の厚生会病院、有隣病院などに勤務、最後は相模更正病院の嘱託をしておられた。浅羽先生が平成 6（2004）年 1 月 2 日に亡くなられた後、奥様の俊子未亡人はご主人の残された鎌倉の家に住んでおられたが、筆者の著書『結核と歩んで 50 年』をお読みくださり、ご主人の長く勤められた結核予防会の活動の意義を思い、ご遺産を本会にというご意志をご連絡いただいた。ちょうど家を整理して老人ホームへの入所も考えておられるということであったので、当会が運営を始めた新山手病院に隣接する「グリーンネスハイム新山手」をご紹介したところ、気に入られて入所された。その手続きをしている中で、軽い認知症に罹患されており、補佐人にご主人と東京高校で同窓であった高井和伸弁護士が指名されていることも分かった。その後、数年の曲折の後、俊子さんは平成 20（2008）年 3



平成24（2012）年4月5日 広度禅寺（福島県郡山市）にて（筆者）

月 7 日に逝去され、後見人となっておられた高井弁護士からのお知らせを受けて筆者夫妻も多磨霊園で行われたご葬儀に参列した。

数カ月後に東京家庭裁判所八王子支部から、「島尾が健在であれば、島尾を通じて、もしなくなっていれば直接に、結核予防会に遺産を寄贈したい」という浅羽俊子さんの遺言があるが受けるかという書簡があり、有り難く頂戴する旨返事をして、高井弁護士に間に入っていただいて手続きを進め、年末に 2 億 2320 万 8676 円を頂戴することができたので、その中から施設への入院料、医療費、弁護士費用、公証人費用などの必要経費を差し引いた残りの 2 億 1201 万 8877 円を結核予防会に寄贈し、翌平成 21（2009）年 1 月に「結核アーカイヴ運営基金」が作られ、結核アーカイヴを発足させることができた。高井弁護士は、浅羽俊子さんのご遺骨のお世話をされる方がいないことを考慮し、葬儀の際導師を務められたご友人の福島県郡山市在の広度寺鬼

生田英俊住職所有の墓地に永代供養していただくよう委嘱し、平成 21 (2009) 年の 1 回忌には墓碑も完成していたので、高井弁護士と筆者夫妻が参列して供養と墓参を行い、これで高井弁護士は後見人としての仕事をすべて終了した。

筆者夫妻は平成 22 (2010) 年にも 4 月に墓参し、平成 23 (2011) 年には、結核予防全国大会が 3 月に郡山市で開催されることが決まっており、その際には予防会の幹部も墓参するよう計画していたが、3 月 11 日に発生した東日本大震災のために、すべてが中止になってしまった。

筆者も現在 87 歳、9 月の誕生日には 88 歳となり、筆者個人では浅羽さんの供養にも限界があるので、今回アーカイヴ事業担当の竹下総務部長と菊地総務課長、それに浅羽さんが「グリーンネスハイム新山手」入所中に色々とお世話をし、また時に誤解を受けた経験もある当時の「保生の森」事務長、現第一健康相談所羽生渉企画部長も同行し、法要と墓参を行うこととした。

4 月 5 日、水温む東京から、未だ寒風の吹く郡山駅に降り立った一行は、郡山市北方の野田町字鬼生田 (おにゆうだ) にある広度禅寺に向かい、

まず本堂での読経、焼香、次いで墓地にお参りし、「俊光院孤雲良徳大姉」となった浅羽俊子さんの墓前に、基金ご遺贈への感謝と、結核アーカイヴ事業の発足とその発展を誓った。

結核アーカイヴ事業は発足して 3 年であるが、その間に岩井先生のご尽力で、中野療養所などから引き継いだ病理標本の整理はほぼ終了し、現在結核の病理と題する写真を中心とする本の刊行を準備中である。また大阪寝屋川市の小松先生の杏記念館から頂いた膨大な資料の整理も進行中である。また、自然療養社でサナトリウム療法時代の結核患者の療養の指導者であった田邊一雄さんのご長女からは、雑誌「自然療養」全巻のご寄贈も受けることができ、昭和 10 年代の結核啓発映画の DVD 化も青木純一 (東京都市大学教授)、渡辺幹夫 (順天堂大学教授) 両先生のご尽力で終了し、事業は着々と進行中である。

聞くとところによると、「月よりの使者」や「風立ちぬ」で高名な長野県の富士見高原療養所跡には、立派な記念館が作られた由、野麦峠と合わせて、一度訪問させていただきたいと思っている。

